

もと 勝手に

美食倶楽部

産経 2021 7/10



淡路自動車道鳴門インターチェンジから約15分。道路わきに立つ黄色いのが目印。濃厚なブルーベリージュース(500円)なども。8月中旬ごろまで。水曜定休。入園料は中学生以上2千円、小学生1500円、4歳以上の幼児千円。淡路市野島常盤1015の18。090・3788・3971。

夏の疲れ癒やす甘い小粒

淡路島での観光の合間に甘いブルーベリーはいかがでしょう。淡路市野島常盤の観光農園「ブルーベリーヒル淡路」は開園2年目。平成30年に島に移住した林田雅行さん(43)が荒地を開拓してオープンした。食べ放題の実も甘くておいしいが、併設するカフェで妻の寿々さん(39)が販売するブルーベリーのシエラトや大福といったスイーツも暑い夏の疲れを癒やしてくれる。

同園では約1畝の敷地で鉢植えにした36品種約千本のブルーベリーが露地栽培されている。今シーズンは適度な雨量で順調に実をつけ、甘みは強く、ほどよい酸味になったという。

ブルーベリー狩りを楽しんだ後は、農園に併設するコンテナ風のカフェで一休み。味が濃く加工向きの品種という「スプリングハイ」を原料にしたシエラト(480円)や大福「なつ子とタイフク」(420円)

がおすすめ。なつ子は農園の草刈りで活躍する雌ヤギの名前だという。

開墾された土地だけあって、農園のすぐ近くには木々が生い茂り、吹き抜ける風が心地いい。凍ったタイフクを一口ほおばると、アイスを含む餅の弾力を感じた後、サクッとアイスに歯が刺さり、じわりと甘みが広がる。シエラトにはそのスプリングハイの実も添えられ、ととんブルーベリーを堪能できる。

原料は同園のブルーベリーだが製造は外部発注。同園にまた水が引かれていないためだ。近く水道工事が予定されているといい、寿々さんは「将来は自家製にしたい。ジャムも作りたい」と意欲満々。雅行さんは「さまざまな品種のブルーベリーを食べにきて」とアピールする。

完全予約制で密になることもない。コロナ疲れを癒やしに来ては。

(勝田素三)

ブルーベリーの「大福」(手前右)。「シエラトも味わって」と話す林田寿々さん

